

One Purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

195

2018 July

特集

同志社大学の目指す 「良心教育」とは

同志社人訪問

株式会社ソフト99コーポレーション
代表取締役社長

田中 秀明さんに聞く

COVER INTERVIEW
My Purpose 挑戦する人

New!

My Purpose 挑戦する人
を動画でCHECK!



CONTENTS 2018 July No.195

2 特集 同志社大学の目指す「良心教育」とは



7 Seminar ～ゼミ探訪 学びの時間～

社会学部メディア学科 佐伯 順子ゼミ



9 同志社の研究は今

宇宙生体医工学プロジェクト
代表 辻内 伸好 (理工学部機械システム工学科教授)

11 2017年度就職戦線

13 2017年度 大学決算について／2018年度 大学予算について

15 INFORMATION

同志社大学「古本募金」／WEB で CHECK! 課外活動総合 WEB サイト「D-Live」／
本学教員の執筆図書紹介

18 INTERVIEW ～同志社人訪問～

株式会社ソフト99コーポレーション 代表取締役社長
田中 秀明さんに聞く



21 My Job, My Life ～私と「仕事」～

松田 香織さん (2002年 法学部法律学科卒業)

23 COVER INTERVIEW My Purpose ～挑戦する人～

朝田 茉依さん
(商学部 3年次生)



お知らせ

「One Purpose」は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションを図ることを目的として発行しています。2018年度より4月・7月・11月の年3回の発行となります。同志社大学の最新情報は随時ホームページでお知らせしております。ぜひご覧ください。▶ <https://www.doshisha.ac.jp>

特集

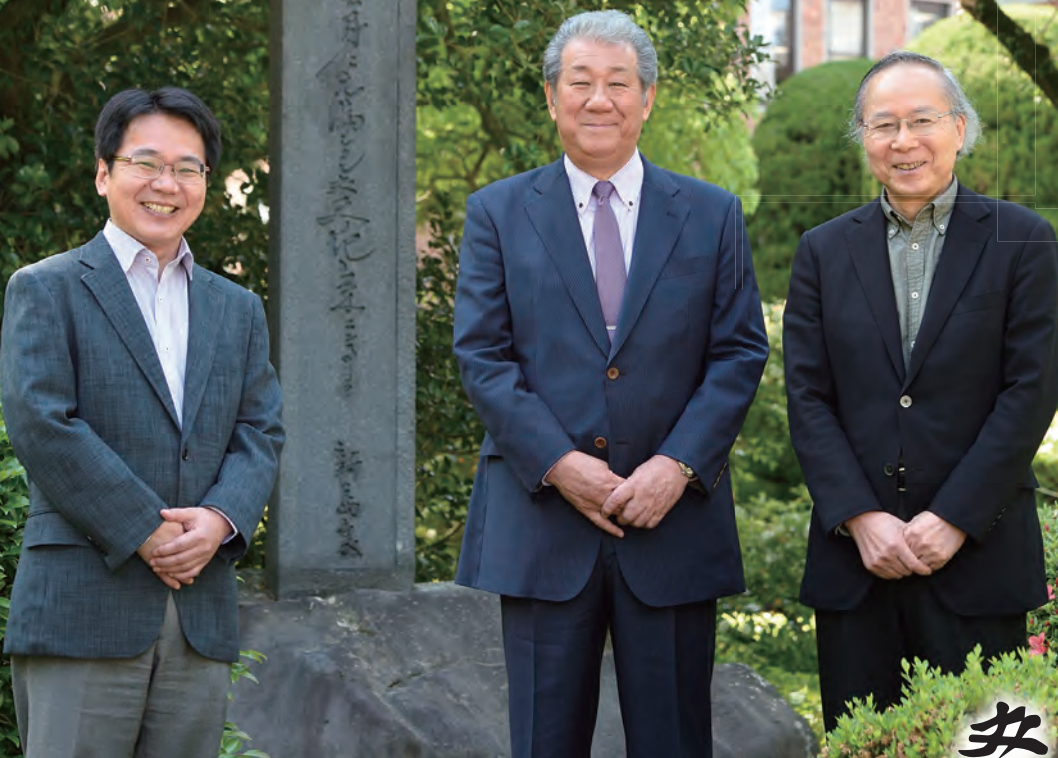
同志社大学の目指す「良心教育」とは

建学の精神
「良心教育」

キリスト教
主義

自由
主義

国際
主義



良心
之
全身
に
充滿
す

新島襄の志

新島襄

激動する幕末に日本の将来を憂い、鎖国の国禁を犯してアメリカに渡った同志社の創立者・新島襄は留学中に CONSCIENCE という言葉に出会い一国の良心を育てる「志」を見出し、同志社教育の根幹として「良心」を掲げる。

現代、様々な価値観がはげしく対立し、混迷をきわめる中で、新島の崇高な精神を大きく開花させ、結実させることが求められているのではなかろうか。「道徳」や「倫理」、「利他主義」や「宗教」などとも隣接するこの概念をあらためて考察し、「良心」を覚醒させる、知の連携と実践の道を探る。



新島 襄

「良心を手腕に運用する人物の育成」という建学の精神は、140年以上の時を超えて「同志社人」に脈々と受け継がれてきた。「良心教育」は新島襄の最晩年の手紙の一節「良心之全身に充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」に由来する。

「知育」で人材を育み 「徳育」によって人物を創る

小原 今日では「同志社の目指す『良心教育』」をテーマに、その歴史をふり振り返り、受け継ぐ伝統をどのように現在、そして未来に結実させるのかということと共に議論していきたいと考えています。まず、「良心教育」という言葉ですが、簡潔に要約すれば、「良心を持った学生を輩出することを目指す教育」となります。ここで問題になるのが『「良心」とは何か』です。私たちは頻繁に用いていますが、意外と語意を確定できていないのではないのでしょうか。あらためて調べたのですが、「良心教育」という言葉を文献的に確認できるのは、私が知る限りでは1952年に同志社の大塚節治総長（同志社13代総長）が日記に残したものが最古です。沖田先生が本学で学ばれた頃はどうか。

沖田 私は1968年に入学しましたが、当時はあまり使われていなかったと記憶しています。今出川校地に新島襄永眠50周年の記念事業として「良心碑」が建立されたのは1940年ですが、当時は軍国主義が日本を席卷していた時期であり、本学のキリスト教主義は時代にそぐわないものでした。そこでキリスト教を

超えた文言が求められ、新島襄の晩年の手紙の一節「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ」から「良心」が選ばれ、刻まれました。戦後、軍部の圧力によって用いられた言葉というネガティブなイメージが残っており、「徳育」の起点として再びキリスト教主義が標榜されるようになったのです。このような時代背景を経て、「良心教育」という言葉が積極的に使われるようになったのは、1970年代後半からだと思います。



林田 京田辺校地にも1986年の開校時に設置された「良心碑」がありますが、過去にはそのような経緯があったのですね。歴史的な背景の中で、一つの言葉にどのような意図が込められていたかを正確に把握しておくことは非常に大切だと思います。ある時代においてネガティブに捉えられていたものも、時を経てポジティブなものになりうるのです。

沖田 「良心」という言葉には、もう一つの大きな流れがあります。その歴史は1869年に遡ることができます。岩倉具視の依頼を受けた熊本藩の横井小楠が幼年の明治天皇のために著述した『中興の立志七条』で宮中の古い伝統は「良心」を滅ぼすと指摘し、天皇が反戦の立場に立てば、自然と「良心」が発すると述べています。さらに天皇宛の遺言『遺表』にも「良心」の大切さを記しています。小楠は「良心」を「道」または「誠」と解説しています。これは徳富蘇峰の父

の一敬らが受け継ぎ、海老名弾正が永らく保管してきました。

小原 林田先生は「良心学」の講義も担当されていますが、教壇に立たれて感じておられる学生たちの反応を聞かせていただけますか。

林田 理化学館（京田辺校地）の正面に本学に貢献したJ.N. ハリスの言葉が刻まれています。「SEEK THROUGH YOUR VOCATION TO SERVE GOD AND HUMANITY（天職による神と人類への献身）」です。学生たちに世界に貢献する天職を見出すことの大切さを伝えたいと思うのですが、この時、「人類のために…」は素直に受け入れられても、「神のために…」を納得してもらうことは難しいと感じます。「キリスト教主義」は本学の教育理念の一つですが、教員がこれを的確に捉え、学生たちに理解してもらえるように努力することの必要性を痛感しています。

小原 本学の歴史を背景に建学の精神や教育理念を今日の学生にどのように教授していくのか。これは教員個々の課題だと考えています。「VOCATION（天職）」という言葉も、掘り下げていくと非常に宗教的な意味があります。マックス・ウェーバーが指摘したように、マルティン・ルターが宗教改革の時に強調した言葉です。それまでは職業に貴賤がありました。例えば、聖職は神から選ばれた尊い仕事とされ、世俗的な職業労働は蔑まれていました。しかし、ルターはどのような仕事も神から与えられたものであり、それを全うすることによって神に仕えることができると論じました。この時、新たな職業観が生まれたのです。

林田 天職に気づくことはきわめて重要なことです。神から与えられたと思わなくても構わない。自分の才能や興味を見出して、それを積極的に伸ばしていったと欲しと願っています。

小原 「キリスト教主義」をどのように位置づけるかですが、新島襄は「徳育の基本とする」と述べています。しかし、キリスト教の布教が目的ではない。目指していたのは崇高で普遍的な価値観に基づく教育です。これは非常に大切な観



小原 克博

良心学研究センター長
神学部教授

点です。

沖田 何よりも大事なことは「知育」と、これを支える「徳育」を同時に教授すること。これが本学の教育の特質です。官立と同志社の違いは、この一点であると新島襄は指摘しています。官立は「知育」に主眼を置いており、知識は良く切れる刃物のように、使い方を誤れば、他者を傷つけ、自身も血を流すことになる。「徳育」が加わることによって、初めて十全たる教育が完成するのです。「知育」で人材を育み、「徳育」で人物を創る。これが本学の教育の原点だと考えています。

「共に知る」ことによって 個々の「良心」を覚醒させる

小原 英語の CONSCIENCE はラテン語やギリシャ語に由来する言葉で、原義は「共に知る」です。訳語としての「良心」は、『孟子』から取られており、儒教的な性善説の系譜の中にありますが、西洋概念に基づく CONSCIENCE の原義には、善悪の価値判断は含まれていません。現在の世界は善悪の二元論に偏りがちであり、「まず共に…」という姿勢が弱体化していると感じています。学問においても「共に知る」ことは基本だと思うのですが、現代の学問はあまりにも細分化しており、他の領域のことが分からない。このような状況の中で、あらためて「共に知る」ということの意味を掘り下げていきたい。それが本学の使命だと考えています。「現代が直面している課題を共に知る」ことによって文系や理系の枠を超えて有意義な議論ができ、「良心」を覚醒させる、知の連携と実践の道を探ることが可能だと確信しています。「良心学」の授業や良心学研究センターも、その一翼を担いたいと願っています。これに関して林田先生は科学の視点からどのようにお考えですか。

林田 科学技術は「共に知る」ことが起点となる世界です。知識が共有され、その成果がさらに高次の結実を生み出し、社会の伸展に役立つ。CONSCIENCE には「SCIENCE」、「科学」が含まれており、「共に知る」という行為の最たるものといえます。確かに今日では非常に細

分化されていますが、その歴史を遡れば、理系とか、文系という区分はありません。例えば、ガリレオ・ガリレイもアイザック・ニュートンも自身を理系だとは思っていませんでした。ですから、それぞれの学問のルーツを辿っていけば、専門分野を超えた世界に帰結します。また、「良心」という問題も個別の分野で考えるというのは不可能であり、「共に考える」ことが不可欠です。「良心」という視点から今日、科学者や技術者が直面する課題として、まず研究倫理があります。2014年に文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改訂と「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の策定が行われ、本学でも研究倫理の規範を作成し、積極的に取り組んでいます。現在、注視されているAI（人工知能）などを始めとする最先端の科学技術の研究開発においては、これまで以上に科学者や技術者の社会的責任や倫理観が問われます。これらに関しては、新島襄が予見し、キリスト教に基づく「徳育」を受けた科学者の養成を強調しています。全ては世の中を良くするために行われているのですが、災厄をもたらすリスクもある。これがブラックボックス化しているために、不安が生じるわけです。背景にある危惧すべき問題は、専門家と一般人との乖離です。科学技術の歴史を知り、それが万能ではないことも認識することが大切です。科学不信に陥らないためにも、全ての人々が分野を超えて「共に学ぶ」という姿勢がさらに重要になってくると思います。

小原 文部科学省が「道德教育」の強化を図るために、「特別の教科 道德」を今年4月から小学校で全面的に実施しました。来年からは中学校でも行われます。私は「同志社が目指す『良心教育』」とこの「道德教育」の間には、歴然とした違いがあると認識していますが、近代

沖田 行司

社会学部
教育文化学科教授

教育史がご専門の沖田先生はどのようにお考えですか。

沖田 明治10年代末に新島襄は官立学校で「愛国主義」が声高に叫ばれ、国家が教育を通じて国民に浸透させようとしていると危惧し、人を愛する心は「天の人間に賦与」したものであり、一国に限られた「愛国主義」は非常に狭い考えである、その欠陥を鋭く指摘しています。これに対して新島襄が高らかに掲げたのはキリスト教主義によって培われた「愛人」の観念に基づく「愛人主義」でした。国家の枠組みを超えて、世界の人々を愛し、慈しむべきであるという主張です。そこには、国家を超えた普遍的な真理がある。これは本学の教育理念の一つである「国際主義」の原点でもあります。貧困や飢餓、戦乱などで悲惨な生活を強いられている世界の人々に貢献するのが新島襄の目指した「国際

林田 明

理工学部
環境システム学科教授

主義」です。このような課題を担う人物を本学から輩出したいと願ったのです。この度、実施された「道德教育」が、かつての「修身」とか、「日本的な道德」を教え、国家の枠を超えないものであれば、「良心教育」とは次元の異なるものであると考えます。ここで、もう一つの教育理念である「自由主義」についても、新島襄の真意を明確にしておきたいと思えます。これは自由・自治主義と表現した方が、意図が正確に伝わるかもしれません。「同志社大学設立の旨意」には「自由の内自ら秩序を得、不羈の内自ら裁制あり」、さらに「知識あり、品行あり、自ら立ち、自ら治むるの人民」と述べています。この人民こそ新島襄が理想とした「一国の良心とも謂うべき人々」です。また、私学の教育を重視し、「自由の精神を養成するは恐らくは私塾に優らざるべし」と主張しています。本学の教育理念には「キリスト教主義」と「自由主義」、「国際主義」の3つを掲げていますが、これらは並立したのではなく、「自由主義」と「国際主義」を支える基盤として「徳育」の基本となる「キリスト教主義」があるのです。時々、「好き勝手にやらせて欲しい…同志社は自由主義じゃないですか」といった声を聞きますが、新島襄が目指したのは「自治自立の人民の養成」です。さらに、自由という概念についても深い言葉を残しています。真の自由は人間個々の内面にある様々な偏見や恨み、妬みなどから解き放された時に得られると語っています。ここに導くのが「徳育」であり、その結果として「良心」が自ずと生じてくるのだと理解しています。

「良心」という言葉を 人類を高める普遍的な概念に

小原 先ほども林田先生の「良心学」の講義に関するご発言を受けて、建学の精神や教育理念を学生に対してどのように教授していくべきなのかという課題に触れましたが、新島襄の理想の教師像についてお考えをお聞かせいただけますか。

沖田 新島襄は「自身生徒の率先者となり、生徒の標準」となるように努め、「生

徒の気質に随い幾分か教する所を異にし、生徒をして智進み徳高からしめ」るようにと、その心構えを説いています。また、「自分は弱い者であり、先生と呼ばれたくない」とも述べています。一人の人間として真摯に世界に向き合い、懸命に生きる姿を学生に見せることによって、学生も目覚めていくと考えていたのです。「薫陶」という言葉があります。ご承知の通り、「香をたいて薫りを染み込ませ、土をこねて形を整え陶器を作る」という意味であり、「人徳や品位で人を感化して導く」ことです。新島襄の考えた理想の教師像を、この言葉が象徴しているように思います。小原先生が良



心学研究センターを中核として取り組んでおられる試みについてお聞きした時は、心から感動しました。私は定年を控えていましたが、教員としての残りの全てをこの挑戦に注いでみようと思いました。2025年に本学は創立150周年という大きな節目を迎えます。今、私たち教員は新島襄が掲げた建学の精神、その原点に立ち返り、本学の教壇に立つ意味を自らに問い直し、学生たちを目覚めさせ、高次の世界へ導かなければならないと考えています。

小原 まさに「薫陶」という考え方は理想だと思います。ただし、今日、本学は14学部で約27,000人の学生を擁し、教職員数も膨大です。ここまで大きくなると、小規模な時にはできたことが、できなくなるという問題が生じます。新島襄も「同志社は隆なるに従い機械的に流るるの恐れあり切に之を戒慎す可き事」という遺言を残しています。この課題を直視し、建学当時の教育と現在の実態との乖離を防ぐために、新たな「仕組み」を創出する必要があると考えていますが、いかがでしょうか。

林田 これは非常に難しい問題だと思います。「仕組み」とは、本来、機械的なものだからです。大きくなった組織というものは、常にこのような矛盾を抱えることになります。

小原 ご指摘の通りだと思います。「仕組み」という言葉が誤解を招いたようですが、私が考えているのは教員と学生、教員と教員、学生と学生が膝を交えて何でも自由に話し合える「時」と「場」を生み出し、広げていくことです。「共に知る」機会を点から線、線から面へと拡大させたいと願っています。

林田 そのような意味で、神学部のある大学は素晴らしいと常々思っています。

例えば、友人に神学を学ぶ学生がいるというのは「生涯の宝もの」になります。理工学部の学生が神学部の学生と忌憚なく話し合うこともできるのです。このようなチャンスを積極的に活かして欲しいですね。

沖田 課外活動をもっと重視すべきだと思います。ここには様々な学部学科の学生が集い、それぞれが学んでいる分野を超えて快活に話し合える。私たち教職員もその中に飛び込み、積極的にサポートする。その中で学生一人ひとりが「新島襄からの学び」を見出し、各自の人生の貴重な糧にして欲しい。このようにして建学の精神が世代を超えて受け継がれていくのが私の理想です。

小原 林田先生は「リベラルアーツ」を非常に重視されていますが、私も同感です。これは学びの基礎です。専門分野を探究するためには、それを超えた知のネットワークの仕方を体感しておくことが必要不可欠です。今年3月に発行した『良心を考えるために(増補改訂版)』(同志社大学良心学研究センター)でも、多数の教員、本センターの研究員に専門領域を超えて「良心とは何か」という問いに向き合っていただきました。本学に「良心」というプラットフォームがあるから実現できたことだと考えています。世界に貢献できる普遍的な概念にまで「良心」という言葉を鍛えていきたいと考えています。本日は貴重なご意見、ご提言をいただき、ありがとうございました。



現代世界における「良心」の在り方を、学際的な視点から探求した「良心学」を構築。 その応用と実践の可能性を国内外に発信し、新たな学術コミュニティの形成を目指す。

国際政治、宗教、社会福祉、科学技術など現代社会のあらゆる領域で現代人の「良心」が問われています。それは次代の世界の在り方を大きく左右すると考えられるからです。2015年に設立された良心学研究センターは、同志社が建学の精神として掲げてきた「良心」を中核とする「良心教育」を起点に、学際的な視点から既存の学問領域を超えた力を発揮する「良心学」を構築し、グローバルかつローカルな応用・実践の可能性を探求することを目的としています。設定した研究テーマは①同志社教育にとって「良心」とは何か（基礎的・歴史的探求）、②「良心」は現代社会にどのように適応可能か（応用的・理論的探求）、③「良心」は日常生活や社会生活の中でどう活かされるべきか（実践的探求）です。本研究センターでは、その研究成果を広く社会に還元し、新たな学術コミュニティを形成するために、『良心学入門』などの刊行、定期的な公開シンポジウムの開催など多彩な活動を積極的に展開しています。本学が輩出した思想家・社会事業家たちの現代的意義を問い直す書籍『新編 同志社の思想家たち』（上・下）も沖田教授によって刊行されています。

本学では2005年に新島襄の建学の精神「良心教育」の根幹を学ぶ「同志社科目」を設置しました。日本におけるキリスト教主義の大

学を代表し、全国でも際立つ歴史を誇る本学の創立の理念や経緯などを深く知ることが目的とした科目です。本科目は建学の精神の基本を学習する基礎科目、これをより詳しく研究する展開科目、キリスト教思想の根本や歴史などを専門的に考究する関連科目で構成されています。「同志社科目」はいわゆる自校史教育の先駆けであり、これを機に全国の大学で自校史が教授されるようになりました。

2014年に新たに設けられた複合領域科目「良心学」は、「良心」を中心とした教育理念の歴史的背景を学び、理解した上で、激動する現代世界において「良心」の応用可能性を探り、具体的な実践の在り方を学際的に探求しています。さらに本講義は2025年に迎える創立150周年を視野に入れ、「良心教育」の現代

的使命を明確化する「良心学」入門でもあると位置づけています。また、「良心教育」に基づいた「同志社科目」は、本学の在校生向けに展開されてきましたが、「良心学」は対象者を社会に向けて広く拡大しているのも「同志社科目」と異なります。これは本学の教育理念がその枠を超えて世界にどのように貢献できるのかを次代に向けて問うためです。神学や宗教学、社会福祉、経済学、経営学、心理学、脳科学、生物学など「良心学」担当の各先生の多様な視点（専門領域）から「良心」との接点を探る複合領域科目であることも大きな特徴になっています。この意欲的な講義の一つひとつが各自の中で結実し、21世紀のグローバル社会に果敢に挑む同志社人の揺るぐことのない精神的基軸になることを願っています。



良心学研究センター編『良心学入門』

岩波書店、2018年7月刊

宗教・民族対立やグローバル化、科学技術の進歩と人間の尊厳の問題など、我々が直面する課題を「良心」から考えるための最新刊。その歴史から実践可能性まで、研究成果のエッセンスをここに！キリスト教、イスラーム、哲学、法、社会福祉、経済学、環境問題、ビジネス、スポーツ、科学技術、医療、脳科学、心理学、人工知能からのアプローチを通じて、「良心」が文理融合の最良のプラットフォームとなり得ることを実証する書。



ゼミナール

Seminar

ゼミ探訪学びの時間

社会学部メディア学科 佐伯 順子ゼミ さえき じゅん こ [社会学部メディア学科教授]

メディアを横断的な観点から捉え 主体的な考察力で読み解き 現代社会を生きるために必要な メディア・リテラシーを養成する

卓越した発表と討議による 能動的な学びを重視

佐 伯順子教授の研究テーマはジェンダーとメディア、女性史、文化史である。明治時代の近代化における女性の社会的地位の変化という歴史的背景を含めて、メディアが描く男女の表象を学際的、国際的な観点から研究し、現代における、そのあり方についての社会的提言へもつなげている。「例えば、明治期に京都出身で民権運動家・小説家として活躍した岸田俊子は『人間世界は男女をもって成りたるものにて、男子のみにて世の中を作るべからず』（『同胞姉妹に告ぐ』明治17年5月）と主張しています。新島襄と同じように、明治の近代化に貢献しよ

うとしました。明治時代の教育が男子エリート養成に傾き、女性を『良妻賢母』という概念に押し込めようとする流れの中で、この枠組みを超える存在感を示した新島八重も、『倭儼不羈』の体现者の一人です」。佐伯ゼミでは明治から現代までのメディア（新聞、雑誌、テレビドラマ、映画、SNS上の情報、他）を学際的、歴史的に幅広く取り上げ、オーディエンスの反応も含めて、独自の視点から読み解く力を現代社会の諸問題とも照合しながら養成することをテーマにしている。

佐伯教授が本ゼミで具体的に学んで欲しいのは、まず主体的な考察力。すなわち、的確な分析と独創的な見解を客観的資料に基づいて提示する能力である。次に、自発的に議論に加わる積

極性を培い、的確に自身の考えを発信できるプレゼンテーション技能を磨くこと。これらが現代社会においてどのような分野においても必要なメディア・リテラシーの育成に直結し、社会人としての人間力を高めるのに役立つ。

「本ゼミでは一方通行の講義形式ではなく、ゼミ生が主体的に選んだテーマによる発表を行い、これに基づき活発な討議を交わすアクティブ・ラーニングを重視しています。初回のゼミでは、『セクハラとパワハラ』がテーマの発表があったのですが、明治と現代の新聞記事の比較も含まれた調査で、素晴らしい内容でした。ゼミ生による議論も白熱し、非常に充実したものになり、最高のスタートが切れたと思っています。今年の3年次生のゼミは、とても活気にみちた高水準のものになりそうです」。取材当日は、本ゼミの2回目で、発表者は2人。1人目は日花奈々子さん。テーマはSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）。次第に批判的な新聞記事が増加しており、特に「いじめ」「自殺」に関連するものが多いが、事実のみの記述に終始しており、具体的な対策への言及がないと分析。これに対して「新聞社によってSNSに関する記事数に差異がある理由は？」など次々に鋭い質問が投げかけられた。2人目は外蘭沙絵さん。テーマは「晩婚化」。まず、1941年頃から1985年頃までの各時代を象徴する新聞記事を紹介。続けて各紙の「晩婚化」についての記事数の推移などが提示され、最後に「晩婚化」の要因、影響、対策、考察を発表した。ここでも、「なぜ、2012年に読売新聞の記事数が特に急増しているのか、その社会的、政治的背景は？」といった興味深い質問が相次ぎ、熱気を帯びた議論が最後まで続いた。



「当たり前」を見過ごさず 疑問を抱く姿勢を学ぶ

現 在、佐伯ゼミに所属する4年次生は15人(男性5人・女性10人)、3年次生は22人(男性6人・女性16人)である。4年次生の西田樹乃さんは、ゼミ説明会で本ゼミのテーマや特徴などを聞き、「これが私の学びたかったことだ!」と直感し、その場で即断したという。多彩なメディアを横断的な視野で捉え、独自の観点から深く読み解くことに強い興味を覚えたからである。「佐伯先生から得た一番の学びは『当たり前』のことに疑問を抱くという姿勢です。例えば、動画投稿サイト You Tube から起こった世界的なピコ太郎ブーム。以前なら『面白いからヒットした』で済ませていたと思うのですが、『なぜ?』を徹底的に考察しました。本ゼミに所属してから気になったことは、納得のいくまで探究するようになりました」。少女の頃からテレビドラマの世界に魅せられた西田さんは、高校3年生の時に映画製作に挑み、監督と脚本を担当。約1年間の時を注いで納得のいく作品を仕上げた。本学では1年次からボート(漕艇)部でも活躍し、現在も現役を続けている。このような果敢な行動力と抜群の気力も高く評価されて念願の在京キー局への就職が内定した。「大好きなドラマ制作に携われる可能

性を得ただけでも本当に嬉しいですな」。3年次生の高谷亮太さんは、大好きな映画やスポーツを通じてメディアに興味を抱くようになったという。「特に映画の作品の背景とか、スポーツの放映権などに強い関心を持ちました」。本ゼミを選ぶきっかけになったのは、「佐伯先生のゼミはすごく面白い!」という先輩の助言だった。「確かに卒業論文のテーマも実に多彩で、このゼミなら見聞を広げることができ、独自の意見を持ったゼミ生にも出会えるのではと思いました。以前、佐伯先生の授業で学んだジェンダーの視点を絡めたドラマの時代背景の見方が興味深かったことも選択の後押しになりました」。自由な雰囲気の中で活発に討議ができ、主体的に学ぶ本ゼミは、予想していた以上に充実した内容で、刺激的だと語る。大学生の間に自分の可能性を最大限に探りたいと考えている。「私は雑誌やテレビドラマが大好きで、大学案内にあったメディアという学科名を見ただけで興味をそそられ、迷うことなく決めました」と学科の選択理由を語るのは、3年次生の外菌沙絵さん。2年次生の時に佐伯先生の授業を受けてからジェンダーの視点も交えて、テレビドラマや映画を視聴し、各種の報道を見聞きするようになったと振り返る。ゼミの選択では、当初は広告の研究を考えていたが、佐伯先生のゼミ説明を聞いて、メディアについ

て非常に幅広く学べると感じ、本ゼミを選んだ。「発表者のテーマは実に多彩で、適切なデータに基づいた独自の視点から分析されているので興味深く、各ゼミ生からの質問や意見も非常に面白い。自分の学びに役立つ有意義な時間が過ごせていると実感しています。快活な雰囲気も大好きです」。3年次生の日花奈々子さんは、広告に関心があり、特にテレビCMが大好きで、メディアを学ぶなら同志社大学だと絞り込み、選択したという。本ゼミに所属したのは、発表のテーマ選びをはじめ全てにおいて主体性が最重視されているところが気に入ったからである。「やりたいことができる!」といった先輩たちの実感も参考にした。「初めての発表でSNSをテーマに選んだのは、身近で面白い媒体であり、自分なりの視点で分析することができると思ったからです。予め大筋の流れはメモしていたのですが、まとめの段階で考えが錯綜して大変でした。論理の組み立てが曖昧だからだと反省しています」。プレゼンテーション自体も非常に不安だったという日花奈々子さんだが、いずれテレビCMやテレビドラマを独自の観点から納得のいくまで分析し、探究してみたいと語る。将来、挑みたい仕事は広告の企画制作である。



快活な女性のゼミ生が多く、雰囲気も思っていた以上に賑やか。佐伯先生の優しくて的確な指導も本ゼミの大きな魅力です。
3年次生 日花 奈々子(ひばな・ななこ)さん

本ゼミでのプレゼンテーションはドキドキの連続です。でも、鋭い指摘や異なる意見が大きな学びになり、私の視野も広がっています。
3年次生 外菌 沙絵(ほかその・さえ)さん

ドローンの機能を駆使した動画撮影に挑みたい。大学生活の折り返し点を迎えたのを機に、自分が納得できる足跡を残したいからです。
3年次生 高谷 亮太(たかたに・りょうた)さん

健康寿命の延伸を目指す国際的な総合的研究基盤 先端的教育研究拠点「宇宙生体医工学プロジェクト」

新たな領域である「宇宙生体医工学」を研究対象にした本プロジェクトは、今年4月に本学が展開する先端的教育研究拠点の一つに選定された。「人間の健康に関する研究」をテーマに本学の理工学、生命医科学、スポーツ健康科学、脳科学などの各分野の統合化を図り、NASA（アメリカ航空宇宙局）ジョンソン宇宙センター、カリフォルニア大学、イタリア・ジェノヴァ大学などとの共同研究を展開。微小重力暴露模擬実験などを起点に、歩行困難者などに向けた新規運動療法や先進機器の開発、骨格筋萎縮の抑制や防止、再生を促す創薬研究への寄与、肥満症の予防や改善、軟骨や血管の再生治療への貢献など数多くの成果を目指している。

宇宙生体医工学プロジェクト

つじ うち のぶ たか
代表 **辻内 伸好**

【理工学部機械システム工学科教授】

1980年神戸大学工学部機械工学科卒業、1982年神戸大学修士課程工学研究科生産機械工学専攻修了。運動と振動の解析と制御および人体情報の計測と人間工学に関する研究などを行っている。日本設計工学会平成28年度論文賞など数多く学術賞を受賞。大自然を愛し、学生時代からワンダーフォーゲルやスキーに親しみ、最近のオフタイムは、主に鳥取や中国地方で溪流釣りを満喫している。



4つの研究グループで多角的に探究

超高齢化社会を迎えた日本では、平均寿命と健康寿命の乖離が大きな課題になっている。健康寿命とは健康で自立して活動できる生活期間のことである。最近の厚生労働省調査(2016年)では男性72.1歳、女性74.8歳となっており、平均寿命とは10年前後の差が生じている。身体諸機能を低下させる主な原因は高齢化に伴うサルコペニア(加齢性筋肉減弱症)、骨粗しょう症などによるロコモティブシンドローム(運動器障害)、糖尿病や高血圧、脂質異常症を発症するメタボリックシンドローム(代謝障害)である。健康上の理由によってQOL(quality of life)が損なわれない健康寿命の延伸を図るためには、これらの原因を速やかに解明し、効果の高い対処策を見出さなければならない。しかし、現状では未知の領域も多く、各分野の最先端の探究を結集した統合的な研究基盤の形成が必要となっている。

健康寿命の延伸を阻害する身体諸機能の低下は、長期宇宙滞在などの微小重力環境下で助長されるために、1-G環境下での研究と比較して各段の伸展が期待できる。そこで、本プロジェクトでは微小重力暴露模擬試験などを起点にした「宇宙生体医工学」による原因と対応策の探究を推進している。研究体制は4つの研究グループで構成されている。グループ1ではマウス、ラットを使った実験により、抗重力筋活動、老化や活性酸素生産などが抗重力筋、脳・運動神経、脂肪組織の容積や機能、遺伝子・タンパク質発現に及ぼす影響を研究。グループ2は両シンドローム研究の標的となる骨格筋—脂肪組織のクロストーク(シグナル伝達時に他の経路と影響し合うこと)と体脂肪量の決定因子となる脂肪由来幹細胞(ADSC)の分化制御の基盤的な知見の提供を目指している。グループ3は低重力環境暴露などによる抗重力筋活動抑制、運動が脳・神経系に及ぼす影響を追究。グループ4ではリハビリテーション処方や装置の開発をテーマに、月(1/6-G)と火星(3/8-G)の環境に相応する体重免荷状態での歩行や走行のパターンを研究している。

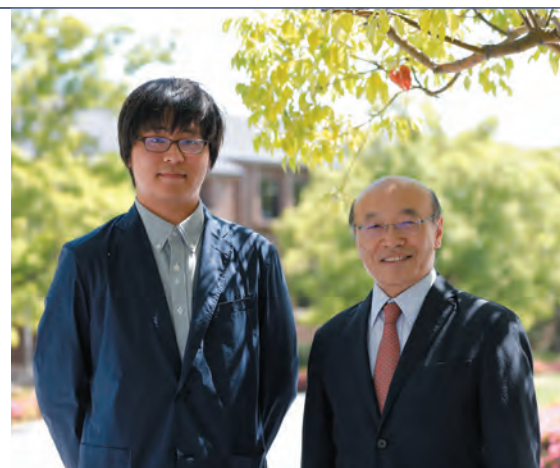
最先端の計測装置でNASAと連携

「今年の4月末から5月初めにかけてNASA(アメリカ航空宇宙局)ジョンソン宇宙センターに行ってきました。本学の理工学研究科に在学中の荒木啓輔君もスタッフの一員として同行しました。本センターの低重力環境をシミュレートする「アルゴシステム(ARGOS)」を用いた研究に、私たちの研究成果である最先端の計測装置が役立つのではないかと彼らが注目し、まず前実験を実施したいという要望があったのです。荒木啓輔君には計測装置の操作を担当してもらっています。現在は共同研究の契約を結ぼうとしている段階です。本年の9-10月にも本実験を行うことになると思います」。例えば、火星までは最短距離でも片道で約半年を要し、この間は無重力状態になり、火星では地球の約8分の3の重力下で長期滞在しなければならない。このような宇宙探査の過酷な状況に対応するために、世界各国で多角的な視点から研究が推進されており、本プロジェクトは宇宙と地球の相互で、「人間の健康の保持」に大きく貢献できていると考えている。本プロジェクトに期待されている成果はきわめて多岐にわたる。具体的にはサルコペニアなどの発病原因の探究による骨格筋萎縮の抑制や防止、再生を促す創薬開発への寄与。身体活動で中心的な役割を担う抗重力筋活動の調整機構の解明に基づく効果的なリハビリテーション処方策や踵から着地する実際の走行に近いトレーニングを可能にする自走式トレッドミルなどの機器の具現化。クロストークを仲介する新規生理活性物質と脂肪由来幹細胞の分化制御構造の特定による肥満症の予防・改善、骨格筋や軟骨、血管の再生治療への貢献。さらに、各分野の企業に対する積極的な知見・技術の発信による産官学連携の推進、次代に向けた宇宙開発を担う人材や起業家マインドの育成も重要なテーマである。また、NASAジョンソン宇宙センターを始めとする各国研究機関との長期的視点に立った共同研究による国際的連携拠点の形成による世界への貢献も目指している。

NASA ジョンソン宇宙センターでの数多くの貴重な経験が明日につながる大きな学びになりました。

以前はロボットに興味があり、その分野に進みたいと考えていました。理工学研究科で現在の研究テーマに出会い、これからの社会に大きく貢献できる宇宙生体医工学に強い関心を抱くようになりました。初めて訪れたNASA ジョンソン宇宙センターは、自動車でなければ移動できないほど広大で、実験施設だけでなく、国際宇宙ステーションのモジュールや試作ロボットなど様々なものを見学することができ、貴重な経験になりました。低重力環境をシミュレートできる「アルゴシステム(ARGOS)」の研究開発の現場に立った時は、心から感動しました。今年秋の実験に参加できることを楽しみにしています。

あら き いけすけ
荒木 啓輔 さん 【理工学研究科機械工学専攻博士課程(前期)1年次生】

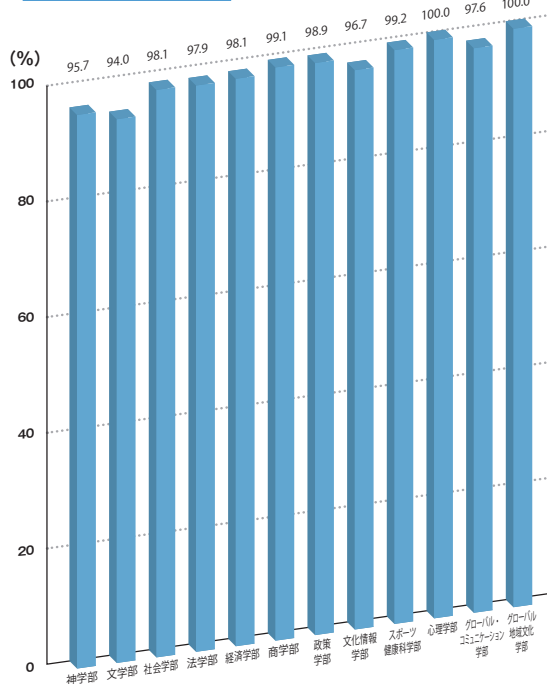


2017年度の就職状況は、大卒求人倍率の上昇を反映して、前年度に引き続き売り手市場となり、就職率は98.3%と高い数字になりました。その一方で、社会のニーズが多様化する中、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果を上げることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。このような変化の中で、皆さん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ（注1）**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になります。

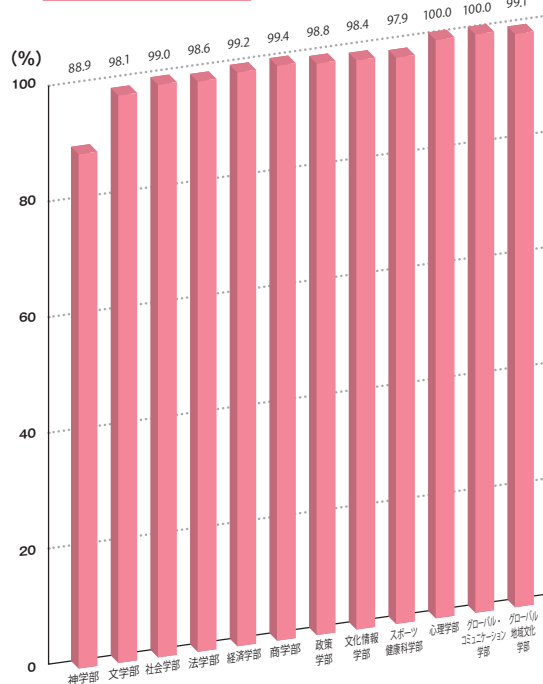
■ 就職率

就職率＝ $\frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$

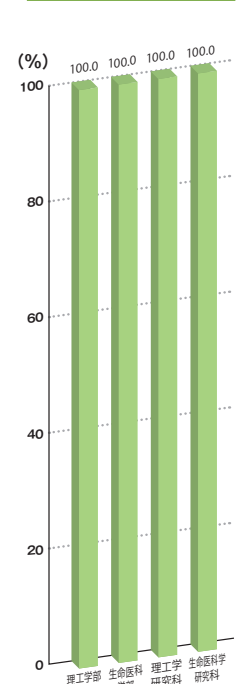
文科系学部／男子



文科系学部／女子



理工系学部・研究科



■ 主な就職先と人数

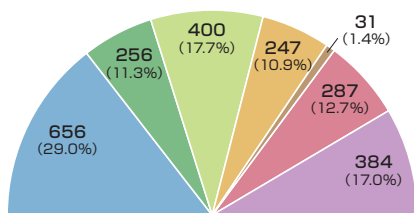
会社名と人数

文 科 系			理 工 系		
国家公務員（一般職）	54	日本郵便株式会社	15	パナソニック株式会社	21
みずほフィナンシャルグループ	38	国税専門官	15	ダイキン工業株式会社	19
株式会社京都銀行	38	アクセンチュア株式会社	14	株式会社デンソー	13
株式会社三菱UFJ銀行	35	株式会社南都銀行	14	日産自動車株式会社	12
住友生命保険相互会社	33	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	14	トヨタ自動車株式会社	10
野村證券株式会社	32	株式会社池田泉州銀行	13	株式会社日立製作所	10
日本生命保険相互会社	30	裁判所職員（一般職・裁判所事務官）	13	本田技研工業株式会社	10
株式会社三井住友銀行	29	三菱UFJ信託銀行株式会社	13	株式会社メイテック	9
りそなグループ	27	株式会社キーエンス	12	富士通株式会社	8
株式会社ニトリ	24	SMBC日興証券株式会社	12	株式会社村田製作所	8
三井住友海上火災保険株式会社	24	パーソルキャリア株式会社	12	株式会社豊田自動織機	7
京都中央信用金庫	23	楽天株式会社	12	三菱電機株式会社	6
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	23	三菱電機株式会社	11	オリンパス株式会社	6
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	22	日本航空株式会社	11	西日本電信電話株式会社	6
株式会社滋賀銀行	22	京都府	11	関西電力株式会社	6
富士通株式会社	21	神戸市	11	積水化学工業株式会社	6
京都市	20	株式会社福岡銀行	11	株式会社LIXIL	6
第一生命保険株式会社	20	明治安田生命保険相互会社	11	三菱自動車工業株式会社	6
株式会社日本政策金融公庫	19	西日本旅客鉄道株式会社	10	川崎重工株式会社	6
パナソニック株式会社	18	株式会社関西アーバン銀行	10	ソニー株式会社	6
株式会社村田製作所	17	株式会社広島銀行	10	ダイハツ工業株式会社	6
三井住友信託銀行株式会社	17	三菱UFJニコス株式会社	10	株式会社野村総合研究所	5
東京海上日動火災保険株式会社	17	三井不動産リアルティ株式会社	10	タカラベルモント株式会社	5
株式会社大和証券グループ本社	17	ダイキン工業株式会社	9	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	5
全日本空輸株式会社	16	株式会社船井総合研究所	9	シャープ株式会社	5
大和ハウス工業株式会社	16	株式会社マキタ	9		
				西日本旅客鉄道株式会社	4
				株式会社ワークスアプリケーションズ	4
				株式会社ケイ・オプティコム	4
				TOTO株式会社	4
				中部電力株式会社	4
				日本光電工業株式会社	4
				東京エレクトロン株式会社	4
				マツダ株式会社	4
				デンソーテクノ株式会社	4
				アクセンチュア株式会社	3
				株式会社キーエンス	3
				日本電気株式会社	3
				京セラ株式会社	3
				ソフトバンク株式会社	3
				株式会社堀場製作所	3
				株式会社NTTドコモ	3
				京セラコミュニケーションシステム株式会社	3
				SCSK株式会社	3
				アイシン精機株式会社	3
				豊田合成株式会社	3
				株式会社日立システムズ	3
				村田機械株式会社	3
				旭化成グループ	3
				株式会社クボタ	3
				シスメックス株式会社	3

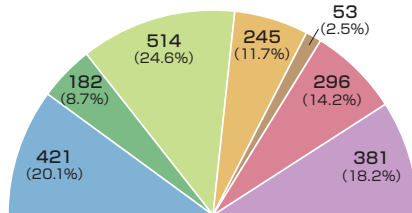
※企業団体名は2018年4月1日現在の名称を記載しています

業種別内定状況

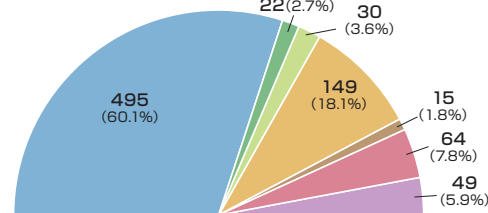
【文科学部・研究科 男子】(人)



【文科学部・研究科 女子】(人)

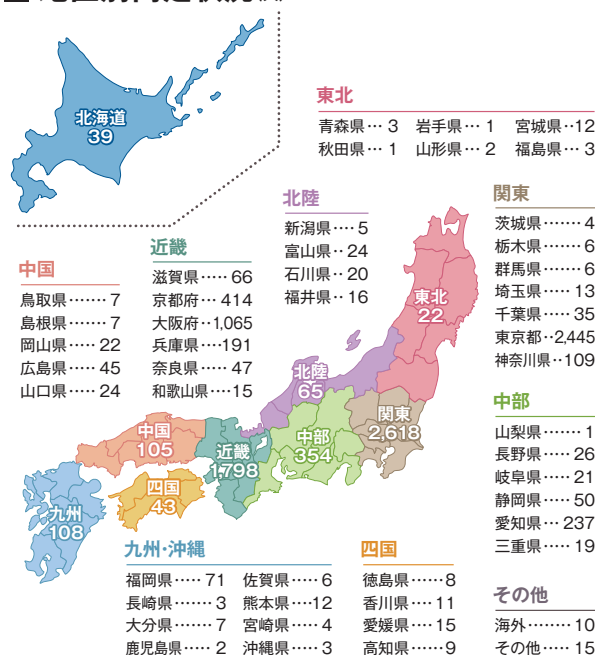


【理工学部・研究科】(人)



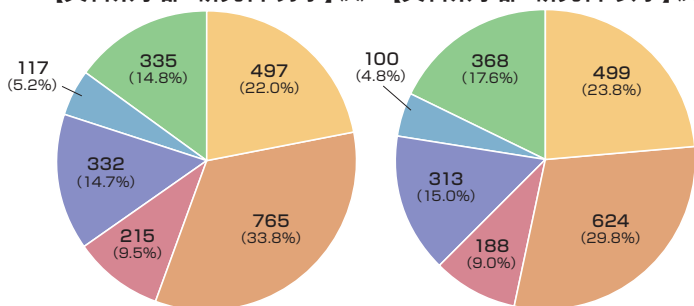
メーカー 流通 金融 マスコミ・情報通信 教育・学習支援 サービス 公共・その他

地区別内定状況(人)

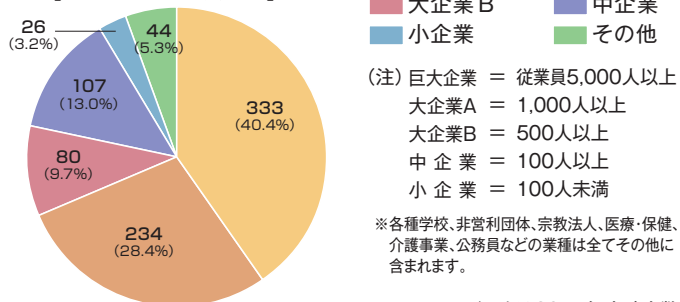


従業員規模別内定状況

【文科学部・研究科 男子】(人) 【文科学部・研究科 女子】(人)



【理工学部・研究科】(人)



巨大企業 大企業A 大企業B 中企業 小企業 その他

(注) 巨大企業 = 従業員5,000人以上
大企業A = 1,000人以上
大企業B = 500人以上
中企業 = 100人以上
小企業 = 100人未満

※各種学校、非営利団体、宗教法人、医療・保健、介護事業、公務員などの業種は全てその他に含まれます。

※データは2017年度確定数

(注1)インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理念との統合を図り、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型（公募制）のインターンシップもあり、キャリア支援システム「e-career」(<https://career.doshisha.ac.jp/campusweb/>)でその一部を紹介していますので参考にしてください。

参加者の感想



このインターンシップの経験は非常に有意義なものでした。今振り返ってみると、参加してよかったという思いに満ち溢れています。実際に会社でインターンシップを行うことで、自分と社会人との違いが明確にわかり、自分がまだ学生としての甘えがあると感じることができました。また、この実習の中で自分いかに知識がなく、相手に伝える力が欠如しているかわかったことも大きな成果です。

自分がどのような職に就くことになったとしても、大切なのはその環境の中で自分が何をすべきか何ができるのか考え、実行に移していくことだと改めて気づくことができました。企業分析なども大事ですが、それよりも今の時期に自分を見つめ直し成長できる機会をインターンシップ研修を通じて得ることができたので、これからの就職活動を含め学生生活に生かしていきたいと強く思うようになりました。

初めて社会人の方と交流させていただき、同じ立場に立つことで、臆することなく自らの意見を発信し、自分の疑問や発見をとことん追求する積極性を身に付けることができました。また、それがいかに社会人にとって重要か学ぶことができました。この積極性は、就職活動や社会に出た際の、これからより多くの様々な人と関わり、未知の世界に飛び込む場面において、私の大きな武器になると思います。

海外インターンシッププログラムに参加し、様々な出会いを通して、海外で活躍する方々のチャレンジ精神に満ちた経験談や信念を聞くことができました。目的や理由、経緯は違っても、自分の人生にとって悔いのないような決断をされてきた方々と触れ合えたということは、これまで逃げて安全な選択ばかりしてきた自分にとってはものすごく刺激的で考えさせられるものになりました。

今回の体験は絶対に無駄ではないと言い切れます。様々な体験ができたこともそうですが、何よりいろいろな方と出会い、会話できたことが貴重な経験となりました。普段話さないような方と話すことで、その人の考え方に触れ、自分の価値観を広げることができ、とてもよかったです。

2017年度大学決算は、2018年5月10日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月26日開催の法人理事会で承認されました。

2017年度は、今出川校地においては、明德館や育真館の耐震改修工事を実施した他、各建物の昇降機、空調機器を更新し、キャンパスの環境整備を行いました。京田辺校地においては、学習環境整備の一環として、昨年度に引き続きラーネッド記念図書館の改修工事を実施し、1階エリアは新たな学びの空間となるラーニング・コモンズへとリニューアルされました。壁面のスクリーン・プロジェクターを使って各種プレゼンテーションやワークショップ、グループワーク等が行えるスペースをはじめ、アカデミックインストラクターやラーニング・アシスタントらによる総合的な学習支援を受けられるサポートエリアを整備しました。また、知真館3号館トイレ改修工事をはじめ、各建物の昇降機、空調機器を更新し、キャンパスの環境整備を行いました。このほか、松蔭寮の改修工事を実施し、学生生活のアメニティ向上を図りました。

研究面では、赤ちゃん学研究センターと理化学研究所医科学イノベーション推進プログラムの健康医療データ多層統合プラットフォーム推進グループが「生体リズムに着目した発達障害の解析」および「胎児心電図計測技術の高度化」をテーマとした共同研究を開始しました。2018年1月には、本研究プロジェクトを一層推進していくため、学研都市キャンパスに「同志社大学―理化学研究所推進室」を設置し、本学と理化学研究所の研究者が共に活動できる場を整備しました。

さらに、2017年11月、文化庁の地域文化創生本部が公募した「文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業」に本学の創造経済研究センターが応募した「文化芸術創造都市に係る評価と今後の在り方に関する研究」が採択され、本学と文化庁地域文化創生本部が研究交流に関する包括協定を結びました。文化庁が大学・研究機関と共同研究を実施するのは、今回が初めての取り組みで、今後の活動が注目されます。

このほかにも、2017年10月に本学と公益社団法人日本仲裁人協会が締結した「京都国際調停センターの運営等の協力に関する協定」に基づき、本学を拠点とする国内初の「京都国際調停センター」を設置す

るなど、本学が進める研究活動が他機関との連携に大きな飛躍を遂げた1年になりました。

教学面では、2018年度から開講予定の「クリエイティブ・ジャパン科目」の新設に向けて、開設記念シンポジウムとして「日本のブランド力としての文化創生」を開催しました。この科目群は、文化庁の文化・芸術政策の方針を意識しつつ、本学の創造経済研究センターと京都と茶文化研究センターの研究成果を取り込んだ内容となっています。この科目の多くのクラスでは、ゲストスピーカーによる講演や、フィールドワーク、実習等を通して、伝統文化や芸術の担い手等の実践知を身に付けることを目的としています。

学生支援面では、自然災害に対する緊急措置として、「台風18号による被害に伴う学費等減免の特別措置」を行った他、大分県中津市、日田市等の大雨による災害等についても、学資支弁が困難となった在学生を対象に減免措置を行いました。

そのほか、「同志社大学ビジョン2025」を推進すべく、「同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金」を開始しました。この募金は、ビジョンに掲げる6つの事業推進をはじめ、奨学事業、課外活動支援、施設設備整備等幅広い事業を対象としており、本学に関わる全てのステークホルダーに本学の教育・研究活動のさらなる充実・発展に向けての支援をお願いしています。

2017年度は、従来から継続している国際化の推進と情報機器のリブレースをはじめ、各方面で必要となる財政的支援を行いました。収入面では、入学志願者数を安定的に確保したことによる入学検定料の増加、募金の受入れおよび図書・機器の現物寄付による寄付金の増収、私立大学等経常費補助金の交付見込みからの増加等により、予算よりも大幅な増収となっている一方、支出面では、教育研究に係る各事業での経常的経費の執行残などにより、予算と比較して減少し、収入超過となりました。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は327億円で、事業活動収入に占める割合は78%と大きな比重を占めています。

手数料は21億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、同志社大学2025 ALL DOSHISHA 募金、教育研究施設等整備資金寄付金、研究助成への奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金を受入れました。

補助金は30億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助21億円、特別補助5億円を受入れています。その他の国庫補助金では、防災機能等強化緊急特別推進事業などの採択を受け、さらに大学院教育の抜本的改革を支援する博士課程教育リーディングプログラムに係る補助金などを受入れました。

受取利息・配当金は3億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金です。

付随事業・収益事業収入は11億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、学生寮の寮費などの補助活動収入が主なものです。

雑収入は14億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入や施設設備利用料収入が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

繰出金は5億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

当期固定資産除却額は27億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は1億円で、研究装置取得に係る取崩額です。

特定支出準備金取崩額は8億円で、使途が特定された準備金の取崩額などです。

収入の部合計は455億円となり、手数料、寄付金、補助金、雑収入などの増収により予算に対して23億円の増加となりました。

支出の部

人件費は212億円で、事業活動収入に対して51%となりました。

教育研究経費は157億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は18億円で、大学の維持管理に要した経費です。

その他の事業活動支出は2億円で、固定資産除却に係る減価償却未償却額が主なものです。

施設関係支出は12億円で、既存建物の耐震改修工事や空調機器、昇降機の更新工事などによる支出です。

設備関係支出は11億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

当期固定資産受贈額は1億円で、現物寄付に相当する固定資産の取得額です。

前期末未払金は4億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

基本金組入額は6億円で、将来取得する固定資産のための第2号基本金、奨学事業等のために設定する第3号基本金および恒常的に保持すべき資金としての第4号基本金への組入額です。

特定支出準備金繰入額は9億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は434億円で、予算に対して7億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度収支差額は21億円**の収入超過となり、補助金や寄付金の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して30億円減少しました。なお、累積収支差額としては**327億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

■2017年度 収支計算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位:千円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 生 徒 等 納 付 金	32,617,960	32,721,517	△ 103,557
手 数 料	1,732,200	2,078,072	△ 345,872
寄 付 金	231,520	532,656	△ 301,136
補 助 金	2,416,390	3,049,551	△ 633,161
受 取 利 息 ・ 配 当 金	256,720	286,050	△ 29,330
資 産 売 却 差 額	20,020	20,026	△ 6
付随事業・収益事業収入	886,700	1,092,141	△ 205,441
雑 収 入	1,148,670	1,378,476	△ 229,806
分 担 金	106,360	106,360	0
繰 出 金	523,890	526,344	△ 2,454
(事業活動収入合計)	(39,940,430)	(41,791,193)	(△1,850,763)
当 期 固 定 資 産 除 却 額	2,626,460	2,739,345	△ 112,885
借 入 金 等 収 入	0	0	0
当 期 末 未 払 金	2,160	105,247	△ 103,087
第 2 号 基 本 金 取 崩 額	60,000	60,000	0
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(2,688,620)	(2,904,592)	(△ 215,972)
特定支出準備金取崩額	570,910	756,170	△ 185,260
[収 入 の 部 合 計]	[43,199,960]	[45,451,955]	[△ 2,251,995]

用 語 解 説

収支計算書

当該会計年度における収入及び支出の内容並びに均衡の状態をより明らかにするため、事業活動収支計算書をもとに基本金組入額計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産（施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産）の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	21,275,330	21,178,538	96,792
教 育 研 究 経 費	16,457,350	15,740,622	716,728
消 耗 品 費 他	12,290,140	11,576,008	714,132
減 価 償 却 額	4,167,210	4,164,614	2,596
管 理 経 費	1,709,520	1,807,202	△ 97,682
消 耗 品 費 他	1,533,290	1,629,785	△ 96,495
減 価 償 却 額	176,230	177,417	△ 1,187
借 入 金 等 利 息	1,470	1,471	△ 1
資 産 処 分 差 額	32,970	81,546	△ 48,576
徴 収 不 能 額 等	44,450	41,446	3,004
予 備 費	120,000	0	120,000
繰 入 金	86,800	34,320	52,480
(事業活動支出合計)	(39,727,890)	(38,885,145)	(842,745)
施 設 関 係 支 出	1,821,480	1,236,949	584,531
設 備 関 係 支 出	1,345,150	1,144,543	200,607
当 期 固 定 資 産 受 贈 額	0	138,640	△ 138,640
借 入 金 等 返 済 支 出	38,870	38,870	0
前 期 末 未 払 金	408,140	408,142	△ 2
第 2 号 基 本 金 組 入 額	600,000	600,000	0
第 3 号 基 本 金 組 入 額	0	70,442	△ 70,442
第 4 号 基 本 金 組 入 額	△ 30,500	△ 30,500	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(4,183,140)	(3,607,086)	(576,054)
特定支出準備金繰入額	190,050	906,138	△ 716,088
[支 出 の 部 合 計]	[44,101,080]	[43,398,369]	[702,711]

収 支 差 額 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
(当年度収支差額)	(△ 901,120)	(2,053,586)	(—)
一般支出準備金繰入額	0	0	—
一般支出準備金取崩額	0	0	—
[繰入取崩後当年度収支差額]	[△ 901,120]	[2,053,586]	[—]
[前年度繰越収支差額]	[△ 34,785,920]	[△ 34,785,925]	[—]
[翌年度繰越収支差額]	[△ 35,687,040]	[△ 32,732,339]	[—]

2018年度 大学予算について

2018年度大学予算は、2018年3月8日開催の大学予算委員会および大学評議会、3月31日開催の法人評議員会、理事会で承認、決定されました。主な事業は以下のとおりです。

教育研究の充実
ALL DOSHISHA 教育推進プログラム実施
クリエイティブ・ジャパン科目運営経費
教室PCシステムリプレイス
マルチメディアシステムリプレイス
文化庁との共同研究事業

学生生活支援の充実
世界学生環境サミット活動経費
ローム記念館プロジェクト活動環境整備
多目的(ハロー)ホール音響設備更新

企画広報・管理運営
全学ネットワークシステムリプレイス
証明書発行システムリプレイス
大学Webサイトリニューアル

施設設備整備
新学生寮建設工事
致遠館改築工事
新町学生会館空調設備更新工事
真誠館空調設備設置工事
日糧館東側トイレ改修工事

■ 2018年度 収支予算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:百万円)

収 入 の 部	予 算	前 年 度 予 算	増 減
学 生 生 徒 等 納 付 金	32,797	32,618	179
手 数 料	1,732	1,732	0
寄 付 金	315	232	83
補 助 金	2,992	2,416	576
受 取 利 息 ・ 配 当 金	235	257	△ 22
そ の 他 の 収 入	2,210	2,686	△ 476
(事業活動収入合計)	(40,281)	(39,941)	(340)
固 定 資 産 除 却 額 等	1,485	2,626	△ 1,141
第 2 号 基 本 金 取 崩 額 等	60	62	△ 2
特定支出準備金取崩額	144	571	△ 427
[収 入 の 部 合 計]	[41,970]	[43,200]	[△ 1,230]

支 出 の 部	予 算	前 年 度 予 算	増 減
人 件 費	21,222	21,275	△ 53
教 育 研 究 経 費	15,968	16,457	△ 489
管 理 経 費	1,765	1,710	55
そ の 他 の 支 出	285	286	△ 1
(事業活動支出合計)	(39,240)	(39,728)	(△ 488)
施 設 ・ 設 備 関 係 支 出 等	2,271	3,614	△ 1,343
第 2 号 基 本 金 組 入 額	1,200	600	600
第 3 号 基 本 金 組 入 額	0	0	0
第 4 号 基 本 金 組 入 額	54	△ 31	85
特定支出準備金繰入額	409	190	219
[支 出 の 部 合 計]	[43,174]	[44,101]	[△ 927]

収 支 差 額 の 部	予 算	前 年 度 予 算	増 減
当 年 度 収 支 差 額	△ 1,204	△ 901	—
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 35,687	△ 34,786	—
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 36,891	△ 35,687	—



同志社大学「古本募金」

お手元の不要な書籍等が 同志社大学生の奨学金に

下記期間に寄付を
していただいた場合、
買取金額(寄付額)が
10%UP
になります!!

夏のキャンペーン月間

2018年 7月1日～8月31日

【同志社大学古本募金とは】

同志社大学では、2018年1月から(株)バリューブックスと提携して「同志社大学古本募金」を開始しました。お手元の不要な書籍等(CD、DVD、ゲームソフトを含む)を(株)バリューブックスにお送りいただきますと、その買取金額が同志社大学への寄付金となります。寄付金は、同志社大学奨学金の原資として活用させていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

1 本・CD・DVD・ ゲームソフトを梱包



合計5冊(5点)から送料無料

書籍等を段ボール箱に
梱包してください。

2 古本の 集荷・仕分け・査定



株式会社バリューブックスで
査定を行い、買取金額が
同志社大学に寄付されます。

3 同志社大学 古本募金へ



買取金額の寄付

集荷から約10日で
書籍寄付受領書・御礼状を
送付します。

お申込方法

下記①・②のいずれでもお申込みできます。

① WEBで申込み

同志社大学古本募金
(<http://www.furuhon-bokin.jp/doshisha/>)
よりお申込みください。



② 電話で申込み

- (1) 上記WEBサイトから申込書をプリントアウトしてご記入いただき、書籍等と一緒に段ボール箱へ詰めてください。
※段ボール箱が複数になる場合でも、申込書は1枚で結構です。
- (2) 株式会社バリューブックス
0120-826-292へお電話ください。

【お願い】

■ ISBNコードがついている本をお送りください。

(右図参照)
ISBNコードのない本は
買取できません。



■ 以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

ISBNコードのない本、百科事典、コンビニコミック、
個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌

●「同志社大学古本募金」についてのお問い合わせ

同志社大学 学生生活課(ji-kosei@mail.doshisha.ac.jp)
TEL: 075-251-3280
(月～金 9:00～11:30、12:30～17:00)

WEBでCHECK!

課外活動総合WEBサイト「D-Live」

今すぐ
アクセス!

同志社 dlive

検索

<http://www.d-live.info/>



「D-Live」では、学生団体の活動やイベントの最新情報をご紹介します。
ぜひアクセスして日程をご確認のうえ、応援やイベントへご参加ください。

DOSHISHA SPORTS

www.d-live.info/sports/

体育会をはじめとした公認団体・登録団体の
クラブ紹介や試合の日程をご覧いただけます。



学生支援センター

学生支援センターが主催する各種プログラムやイベント・セミナー
の最新情報および学生支援の概要、課外活動でご利用いただけ
る施設紹介などをご覧いただけます。

DOSHISHA CULTURE

www.d-live.info/culture/

文化系公認団体・登録団体のクラブ紹介や
活動の予定をご覧いただけます。



参加者募集

障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

<http://challenged.doshisha.ac.jp>



同志社大学公式 Facebook
<https://www.facebook.com/doshisha.university>



同志社大学公式 twitter
https://twitter.com/DoshishaUniv_PR





本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

日本語教育に役立つ心理学入門

鈴木伸子 他 著 くろしお出版 1,800円

広告の夜明け

竹内幸絵 他 編 思文閣出版 5,200円

アスリートの栄養アセスメント

高木俊 他 著 第一出版 2,700円

梁塵秘抄

植木朝子 編訳 筑摩書房 1,300円

教育社会学事典

阿形健司 尾嶋史章 山田礼子 他 著
丸善出版 22,000円

民事訴訟法の理論

中西正 他 著 有斐閣 30,000円

江戸の学問と文藝世界

大山和哉 他 著 森話社 6,500円

婦一協会の挑戦と渋沢栄一

沖田行司 他 著 ミネルヴァ書房 3,800円

戦略的キャリア作りのためのノート

清水習 他 著 オリンピア印刷

一神教とは何か

小原克博 著 平凡社 820円

スポーツ法学 第2版

川井圭司 他 著 エイデル研究所 2,500円

竹田からくりの研究

山田和人 著 おうふう 12,000円

超分子科学

東信行 他 著 化学同人 9,000円

これからの大学経営

伊多波良雄 他 著 晃洋書房 3,800円

グローバル・ガバナンス学I

大矢根聡 他 編著 法律文化社 3,800円

基礎演習民事訴訟法 第3版

林昭一 岡田幸宏 他 著 弘文堂 3,000円

特集・労働争議

武蔵勝宏 他 著 信山社 4,200円

基礎から学べる

金融商品取引法 第4版

釜田薫子 他 著 弘文堂 2,200円

樹脂／繊維複合材料の界面制御、 成形加工と評価

大窪和也 他 著 技術情報協会 80,000円

労働六法 2018

土田道夫 他 著 旬報社 5,000円

政策税制の展開と限界

占部裕典 著 慈学社出版 10,000円

開発政治学を学ぶための61冊

小山田英治 他 編著 明石書店 2,800円

良心を考えるために 増補改訂版

小原克博 下楠昌哉 木原活信 深谷格 八木匡
和田喜彦 瓜生原葉子 北寿郎 林田明 武藤崇
貴名信行 元山純 沖田行司 他 著
同志社大学良心学研究センター

心の治療における感情

箕浦有希久 他 訳 北大路書房 2,700円

外国にルーツをもつ子どもの バイリンガル読書力

櫻井千穂 著 大阪大学出版会 5,900円

高校生たちのゆくえ

尾嶋史章 他 編著 世界思想社 2,500円

宇治十帖の新世界

廣田収 他 著 武蔵野書院 3,000円

ベルト伝動・精密搬送の実用設計 第三次改訂増補版

大窪和也 他 編著 養賢堂 4,800円

質的テキスト分析法

佐藤郁哉 訳 新曜社 2,900円

特別の教育的ニーズがある 子どもの理解

中瀬浩一 他 著 樹村房 1,900円

公共政策を学ぶための行政法入門

小谷真理 他 編著 法律文化社 2,500円

京都を学ぶ 丹波編

井上一穂 他 著 ナカニシヤ出版 2,200円

地域で担う生活支援

畑本裕介 他 著 東京大学出版会 4,800円

銀幕の大統領ロナルド・レーガン

村田晃嗣 著 有斐閣 3,900円

中東・イスラーム世界の 歴史・宗教・政治

岩坂将充 他 著 明石書店 3,600円

キャンベル生物学

石浦章一 他 訳 丸善出版 15,000円

これから学ぶスポーツ心理学 改訂版

石倉忠夫 他 著 大修館書店 2,000円

基礎から学べる菌類生態学

大園享司 著 共立出版 2,500円

カルチャー・ミックスII

清瀬みさを 他 編著 大愛崇晴 他 著
晃洋書房 3,200円

法の支配のヒストリー

戒能通弘 編 ナカニシヤ出版 4,300円

六法全書 平成30年版

山下友信 他 編 有斐閣 12,500円

問いとしての部落問題研究

小林丈広 他 著
世界人権問題研究センター 1,500円

現代の人権問題

木原活信 和泉真澄 他 著
同志社大学キリスト教文化センター

新・判例ハンドブック 債権法I

荻野奈緒 他 著 日本評論社 1,400円

英語指導法 理論と実践

赤松信彦 編著 田中貴子 能登原祥之
網井勇吾 著 英宝社 2,500円

フードシステムと日本農業

鬼頭弥生 他 著 放送大学教育振興会 2,900円

社会福祉実践の理論と実際

木原活信 他 著 放送大学教育振興会 2,700円

地域福祉の現状と課題

上野谷加代子 他 編著
放送大学教育振興会 2,800円

地域経済学入門 第3版

徳岡一幸 他 編著 有斐閣 2,500円

自閉スペクトラムの発達科学

石川信一 他 著 新曜社 3,200円

Q&Aスポーツの法律問題 第4版

川井圭司 他 著 民事法研究会 2,700円

民商法の課題と展望

山下友信 他 著 信山社 17,500円

基本刑法II 各論 第2版

十河太郎 他 著 日本評論社 3,900円

民法の基礎1 総則 第4版

佐久間毅 著 有斐閣 3,100円

法学講義 民事訴訟法

川嶋四郎 中西正 他 著 弘文堂 3,300円

企業関係法の新潮流

森田章 川口恭弘 他 著 中央経済社 6,500円

熟議の効用、熟慮の効果

西澤由隆 他 著 勁草書房 3,900円

景観史と歴史地理学

佐野静代 他 著 吉川弘文館 11,000円

大屋 勝義 さん
【商学部 3 年次生】田中 秀明 さん
【1994 年 経済学部 卒業】

株式会社ソフト99コーポレーション 代表取締役社長

田中 秀明さんに聞く

カーワックスなど自動車用ケミカル用品のリーディングカンパニーであり、
産業・生活分野でも多彩な展開で市場を拡大するソフト 99 コーポレーション。
その企業トップに 41 歳で就任し、果敢に牽引する田中秀明社長に取材しました。

今回の同志社人

田中 秀明 さん

【1994 年 経済学部 卒業】

たなか・ひであき 京都府出身。1996 年に同社に入社。商品開発室長、経営企画室長を経て代表取締役社長に就任。「自動車」「産業」「生活」の各事業領域別に事業戦略を推進している。

今回のインタビュアー

大屋 勝義 さん

【商学部 3 年次生】

おおや・かつよし 大阪府出身。卒業後、祖父が経営する会社を継ぐ可能性もあり、商学部を選択。企業とのコラボレーションによる実践的なマーケティング戦略の立案を学ぶために、高橋広行准教授ゼミに所属。高校時代はボクシングで競争力・忍耐力を鍛え、現在は文化系公認団体「京都研究会」の会長を務めている。

未来の社会に貢献する 「あたりまえ」を発見する

大屋 社長就任までのキャリアを聞かせていただけますか。

田中 大学卒業後、外資系洗剤メーカーに就職しました。私は創業家の分家筋なので、元々ソフト 99 は就職先の選択肢には入っていませんでした。ところが、2 年を過ぎた頃に、上場準備のプロジェクトが立ち上がり、「これを契機に、こっちへ来い！」ということになったのです。突然のことなので、戸惑いましたが、考えている時間もなくて、半年後に移りました。当初は販売促進の部門に配属され、2

年ほどしてから商品開発を 10 年余り担当。その後、経営企画に移り、ディスクローズや IR 業務に携わりました。特に貴重な学びを得たのは商品開発の時代です。最も印象深いのは最初に手がけた「フクピカ」。拭くだけでワックスをかけることができるという画期的な新製品です。会社は水分を拭き取る 400 円程度の不織布に、ワックスというプラスαの機能が付加された製品として売り出そうとしました。しかし、付加価値という発想では僅かな価格アップしか見込めない。私は「簡単なワックスとして発売すべき」と主張しました。当時のワックスの販売価格は 2,000 円弱で



同志社で学んだ「自主自立」の精神は人生の岐路でも役立った

あり、その価格差は歴然だったからです。そのために、「袋入り」ではなく「箱入り」の製品形態を提案しました。そうしなければ、ワックスの商品棚に並べてもらえないからです。その時の責任者には反対され却下されましたが、水面下で「箱入り」の準備

を並行して進めていました。ある時、それが見つかり「まだ、やっているのか。勝手にしろ!」とあきらめたのを幸いに、私の企画で押し切りました。自分が絶対に正しいと思ったことは、妥協せずに最後まで貫くことの大切さを実感しました。この会社において最初に経験した「壁を乗り越えた瞬間」でした。現在も社内では、頑固者だと思われています(笑)。

大屋 企業のトップとして取り組んでこられたことを教えてください。

田中 社長に就任して最初に試みたのは、私の考え方を全社員に繰り返し伝え、深く理解してもらうことです。当初はあらゆる機会を捉えて自分の意見を述べ、浸透するのを待ちました。3年ほど経つと幹部社員の一部に「とにかく社長に聞けば、速やかに答えが出る…」と思う者ができて、ことあるごとに私に答えを求めてくるようになる。これはマズいと思い、「いつまで僕に聞くのですか? それなら私が直接あなたの部下に指示を出した方が早い。自分で考えなさい」と諭すように変えました。ソフト99の経

営理念「生活文化創造企業」の実践のために掲げている行動原則の中でも特に重視しているのが「未来の『あたりまえ』の発見」です。これは商品開発だけでなく、すべての部門、社員に向けた不変のテーマです。例えば、ペットボトルで販売されている飲料水やお茶。発売当初は「誰が買うの?」と思いましたが、現在では「あたりまえ」になっています。設立間もない頃に売り出した自動車用の洗剤「ブルーシャンプー」は、ソフト99における典型的な事例の一つです。カーシャンプーの草分け的製品で、まだ頭髪を洗うためのシャンプーも普及していない時代に、「シャンプー」という名称を車の洗剤にいち早く採用しましたが、現在では一般名詞化しています。日常の中に埋没している「あたりまえ」を発見するのは、容易なことではありません。しかし、日々の生活の中に潜んでいる「ちょっとした困り事や小さな不満」を消費者の目線で探れば、次代の社会に役立つ「あたりまえ」を発見することができると確信しています。

自分の頭で考え抜き 確信できる答えを見出す

大屋 社長は「優れた人材」についてどのようにお考えですか。

田中 改革の部分でも少し触れましたが、「自身の頭で熟考し、確信できる解が得られる人」です。ですから、例えば社員が誰かに聞いたような意見、書籍などから引用したような考察を口にした時は、「本当に自分で考えたの?」と確認します。もちろん、このような能力を一朝一夕に磨き高めることはできません。だから、「間違っているけど、結果的に失敗しても構わないから、その考えで進めてみなさい」と背中を押すようにしています。ソフト99も組織が大きくなるに連れて、柔軟な発想やフラットな感覚が薄れているのではないかと危惧しています。これは一定の規模を超えた多くの企業が抱える課題ですが、加速度的に変化する時代に即応していくためには、見過ごすことのでき



ない問題です。だからこそ、社員の主体的で独創性に富んだ思考力を鍛えたいのです。市場の拡大、需要の掘り起こしにおいても、これまでのマーケティングの概念にとらわれない発想を積極的に取り入れた新たな試みが不可欠だと考えています。

大屋 貴社のグローバル戦略について聞かせてください。

田中 歴史的な経緯から申し上げますと、日本では1960年代にモータリゼーションが顕著化し、ソフト99のカー用品の市場も急激に拡大しました。ただし、日本は自動車を綺麗に保持したいというニーズが際立っていますが、他国ではそれほどではありません。ですから、海外市場への進出では、長く苦戦が続きました。その後、日本車のクオリティが世界で高く評価されるようになり、これに伴ってソフト99の製品が高品質であることが再認識され、潮目が変わりました。現在の主な対象国は東南アジア、中国、ロシアです。アメリカでは自国のブランドが強いので積極的な進出は試みていませんが、ヨーロッパはクールジャパンブームを追い風にして急激に売れ始めています。今後、進出したいのはインド、中東圏、アフリカなどです。

大屋 次代についてどのように展望しておられますか。

田中 「100年に1度」の大変革が自動車の分野で起きて始めています。「自動車が生きてから今日までの進化に匹敵する劇的な変化が数年以内に

起きるのでは…」と多数の業界人が注視しています。確かに自動運転や電化が完全に実現すれば、想像を超える激変が起こります。私は昨年度発表した新中期経営計画のテーマを「SHIFT DOWN!!」としました。今後、想定される空前絶後のパラダイムシフトを見据え、自動車のようにギアを下げる(シフトダウンする)ことで、力強く加速しながら新時代に向けて果敢に挑むという意味です。「従来の価値観の延長線上で発想するのではなく、他に先駆けて新たな方向感を捉え、頭をフル回転して次代へ疾走しなければ、絶対に乗り遅れる」と全社員に檄を飛ばしています。

第一線の社員が企業の要 逆ピラミッド思考の組織を

大屋 企業における社長や組織については、どのようにお考えですか。

田中 企業というものは、第一線で日々全力で働く社員がいて成り立つものだと思っています。社長も幹部社員も、数多くの有能な部下がいるから、その地位に居られるのです。このような観点から考えると、組織というものは逆ピラミッド型がふさわしい。少なくとも、このような思考を最優先しなければならないと思っています。例えば、「最近、風が右から左に吹いていると感じます。これまでとは違います…」と察知してくれるのも、現場を熟知した社員です。そのような報告を受けて「何が起きているのか一緒に考えよう」といった双



方向のフラットなコミュニケーションが自在に行える会社でありたいと願っています。社長として多くの卓越した企業家から積極的に学ぶ姿勢は大切ですが、その後を追ったり、真似たりはしません。私も社員に望むように「自分の頭で考え、挑み続ける人間」でありたいからです。

大屋 母校である同志社への思いについて聞かせてください。

田中 私は中学校から同志社でしたが、非常に恵まれた日々を送ることができました。感謝の気持ちで一杯です。最大の学びは「自主自立」の精神。これによって人生の岐路に立った時も、後悔のない選択ができたと思っています。今もパソコンの壁紙は「個儼不羈」です。

インタビューを終えて



インタビュー 大屋 勝義 さん
【商学部 3年次生】

何よりも感動し、心に深く残ったのは、 第一線で活躍する個々の社員が 企業を支えているという言葉です

高橋広行准教授のゼミでも、企業訪問や企画提案などを行っていますが、リーディングカンパニーの代表取締役社長への長時間にわたる取材は、貴重な経験になりました。考え方、生き方など全てに大きな感銘を受け、これからの人生の目標にしたいと思っています。特に感動したのは「第一線で活躍してくれる社員がいるから、私も社長として頑張ることができる」という発想です。私自身の将来の進路に対する相談にも真剣に向き合っていただき、心から感謝しています。本学の大先輩には素晴らしい方々がおられるということを、あらためて実感しました。

My Job, My Life

第78回

私と「仕事」

学生時代からの夢を追い続け、多彩な分野で活躍する卒業生を訪ね
仕事に挑む熱い思い、今後の目標などをインタビュー。
その姿が学生の皆さんの将来のキャリア・プランに役立てば幸いです。



まつ だ か おり
松田 香織さん

[2002年 法学部法律学科卒業]

日本アイ・ビー・エム株式会社

パナソニックエンタープライズ事業部

グローバルビジネス営業部 課長

最先端の技術とサービスで顧客のイノベーションを徹底支援 「お客様の視点」に立脚し、そのメリットを最重視する

就職活動では様々な業界を視野に入れ、採用選考に臨みました。その中で、特に好感を抱いたのが日本 IBM でした。面接の時に自分の思いを率直に述べることができ、それを受け入れてもらえたように感じ、自由度が高くフラットな雰囲気に親近感を覚えたのです。当時 IT 分野が有望視されていたことも、決断の後押しになりました。最先端のテクノロジーで社会を変革していく仕事に携わり、グローバル企業の一員として活躍する機会が得られるのではといった期待感もありました。入社

して東京配属に決まった時は少し驚きましたが、独り立ちできる好機だと捉え、新しい世界にはばたくような高揚感を胸に赴任先へ赴きました。

当初は製品担当の営業として金融業界向けのハードウェア販売に携わりました。その1年後に、当時の上司から「君はもう少しお客様側に近いポジションの方が向いており、より活躍の機会があるのでは…」と打診され、2003 年から外資系金融のお客様にシステムやソリューションをご提案する仕事を担当するようになりました。

日々進化する先進テクノロジーを理解することに加え、外資企業のお客様とのやりとりにも大変苦労しました。最初は電話するのに勇気がいりましたが、地道にやりとりを重ねるうちにお客様との距離も近くなり、積極的に話せるようになりました。毎日遅くまでチームで提案活動をし、ようやく獲得した契約でお客様からも感謝され、社内でも表彰されたときは、とても嬉しかったことを今でも覚えています。

2014 年に結婚したのを機に、関西への転勤を希望し、翌年から現在の部



門に異動しました。IBM では若いうちから大きな仕事を任せられることも多く、プレッシャーも大きいですが、それを乗り越えた時のやりがいや充実感にも繋がっています。

IBM ではお客様満足度を重視しています。私も「お客様が本当は何を望んでおられるのか」を重視し、それにむけてどういう提案が最適かを日々考え続けています。

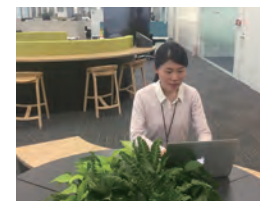
IBM は次代を切り拓くコグニティブソリューションとクラウドプラットフォームを提供することによってお客様のイノベーションを徹底支援しています。「コグニティブ(コグニティブ・コンピューティング・システム)」とは、自律的に考え、学び、判断するシステムのことです。当社では、自社技術の『Watson』を「人工知能」とは呼ばず、「拡張知能」と称しています。意思決定のサポートを目的にしているからです。回答の確信度を示すだけでなく、そこに至った理由を明示するのも際立つ特徴です。また、「クラウド」はインターネットを「cloud= 雲」と表現したもので、ネットワークを最大限に活用する利用形態の一つです。この領域ではパブリック、プライベート、ハイブリッドに対応できる体制

を整えています。

性別、人種、障がい、価値観などの多様性を積極的に受け入れ、人材を育成して活用するダイバーシティにも時代に先駆けて取り組み、大きな成果をあげています。昨年末には「女性が輝く先進企業 2017」において内閣府特命担当大臣表彰(男女共同参画)を授与されました。外国に本社を置く企業では初めての受賞です。また、「働き方改革= オフィス戦略」と位置付け、今年1月に大阪事業所を移転し、「アジャイルオフィス」をコンセプトに改革を実施しました。新事業所は、多種多様な働き方に対応し、働く場所も自由に選べるフリーアクセス型になっています。移転前のオフィスよりずっと働きやすくなったように感じています。

大学時代は同志社大学の魅力を伝えるキャンパスツアーガイドに応募し、学生から卒業生、歴史好きまで様々なお客さまを案内していました。4年次生の時には新島襄先生の足跡を探访する「函館キャンプ」にも参加しました。これらを通じて得た数多くの出会いと貴重な体験が私の大きな糧になりました。後輩の方々に贈る言葉は「迷ったら、やってみる!」です。

One day on the job



🕒 09:00
メールチェック。
海外のチームと
自宅から電話会議
することもあり。



🕒 10:00
後輩と
お客様訪問に向けて
資料を準備。



🕒 12:00
部署のメンバーで昼食。
近くに美味しい
お店が多く
ランチタイムは楽しみ。



🕒 15:00
お客様先での
打ち合わせに出発。



2017年度同志社大学体育会「最優秀選手賞(学長杯)」を受賞 昨年、フィンランドオープン女子団体・シングルスで準優勝し 2018年度春季関西学生卓球リーグ女子団体で王座奪回に貢献

卓球を本格的に始めたのは小学校1年生の時である。祖母の自宅に卓球台があり、手ほどきを受けているうちに熱中するようになり、入学を機に自ら希望して京都市内の卓球スクールに入会。以来、練習に打ち込み、高校は福岡県にある強豪校の希望が丘高等学校に進学し、厳しい指導の下で技量を鍛え抜く。とにかく強くなりたいという思いに駆られ、必死で頑張ってきた朝田茉依さんが、新たな視点を得て、卓球の魅力が実感できるようになったのは、大学生になってからだといふ返る。それまでは、指示されたことをこなすのに精一杯の日々を過ごしていたが、監督や仲間のアドバイスを聞き、自発的にすべきことを見出し、課題を克服するために自主的に取り組んだ。これが勝利に直結し、自身で考えた戦術が功を奏するといった体験を経て、この競技の醍醐味が分かってきたという。卓球にはいくつもの戦型がある。朝田茉依さんのプレースタイルは「シェーク裏粒カット型」。握手するようにグリップを握るのがシェークである。ラケットの表裏に異なるラバーを貼り、ラリーをしながら勝機を窺い、粒(凹凸)のある面でボールの回転に変化を与え、一気に攻める。「カットマンは粘り強いラリーで攻撃の機会を狙うのが一般的ですが、私は早めに攻撃を仕掛ける短期奇襲型。この時、相手に回転の変化を読まれないように惑わすフェイクが得意技であり、勝負のポイントになります」。モットーは「剛毅果敢」。攻めの姿勢を極度の緊張を強いられる試合中も忘れないために、心の中で「攻めろ!」と叫び続けていると語る。また、同志社大学応援団で活躍する友人から贈られた特製タオルには「強烈な気合」を感じ、勝利を呼び込む大切な縁起物として毎回試合に持参している。

同志社大学卓球部の創部は1929年(昭和4年)。卓球というスポーツの黎明期であり、その翌年に日本卓球会(現在の日本卓球協会)や全日本学生卓球連盟が設立されている。男子は一度も1部リーグから脱落したことがないという強さを誇り、女子も1部リーグの常勝チームとして活躍している。高校時代に全国選抜の女子団体で準優勝に貢献した朝田茉依さんは、本学でも1年次から圧巻のプレーで対戦相手を圧倒し、初出場の春季リーグで7戦全勝という華々しい戦果を残す。2年次の昨年は関西学生卓球選手権大会の女子ダブルスで優勝、フィンランドオープン卓球大会の女子団体・シングルス共に準優勝、春季と秋季の関西学生卓球リーグ戦女子団体でも準優勝を勝ち取った。関西学生卓球リーグ戦4季の成績は26勝1敗である。「リーグ戦でチームの勝利に貢献できたのはとても嬉しいのですが、特に印象深かったのは初の海外試合だったフィンランドオープンです。決め手のフェイクも次々に成功し、日本のレベルの高さを、改めて認識することができました」。このような活躍が認められて2017年度同志社大学体育会「最優秀選手賞(学長杯)」を受賞。「選んでいただき、心から感謝しています。私の青春の永遠の誉れになりました。卓球に挑むことによってハングリー精神が鼓舞され、挑戦することの大切さを知り、人間性も高めることができたと感じています。試行錯誤の繰り返しでしたが、続けてきて本当に良かった。多くの学びを得ることができました」。3年次になっても、快進撃は続く。2018年度春季関西学生卓球リーグ女子団体で王座を奪回したのである。3季ぶり8回目の優勝(全勝)だった。朝田茉依さんは殊勲賞、優秀選手賞、ベストペア賞に選ばれた。



あさだ まい
朝田 茉依さん
[商学部 3年次生]